



障がい児保育



一人一人に
寄り添った保育

の取り組みを紹介します



発達に特性を持つお子さまや特別な配慮を必要とするお子さまの、一人一人の個性に合わせたきめ細かい配慮や支援に心がけながら保育を行います。家庭、地域、医療等の必要な専門機関と連携を図り、長期的な視点で支援を行うために個別の指導計画や保育支援計画を作成し活用しながら一貫性のある発達支援を行っています。また、障がいのあるお子さまの指導にあたっては、全職員への共通理解を促し連携しながら保育を行っています。各園には実践スキルを習得した障がい児保育のリーダー職員を配置し、専門性の向上に努めながらチームとしてサポートできるよう取り組んでいます。

鳥取福祉会 親子教室の取り組み

お子さまの心身の発達や行動に関して気になることや、日頃感じている子育ての悩み等を気軽に相談し、親子や子ども同士と一緒に遊ぶことができる「親子教室」を開催しています。福祉会の保育園を会場とし、**感覚統合**の視点を活かした運動遊びやルールのあるゲーム遊び、自然の中で身体を動かし、大型遊具で遊ぶ等、年4回に分けて様々な活動が経験できるよう計画をしています。また専任講師によるミニ講義や個別の相談対応や就学相談、スタッフや保護者同士のグループディスカッションも行っています。



主な感覚



感覚統合の視点を活かした遊び

感覚(視覚、聴覚、触覚、前庭感覚、固有感覚)は脳の発達の大事な栄養であり、子どもは遊びを通じて栄養を取り入れています。栄養の偏りなく発達していくために、いろいろな遊びの体験が必要です。遊びの中で好きな感覚を十分に満たし楽しんでいきます。

